



提言「未来の学術振興構想(2026年版)」について

2026年9月18日

日本学術会議 第三部会員
科学者委員会 学術研究振興分科会 委員長
森田一樹

科学者委員会 学術研究振興分科会(25期)について

設置目的: 学術研究や研究資金に関する検討を行う。

・25期(令和3年1月28日設置)の3つの課題・審議事項:

- ①重要な学術研究の推進(多額の予算を必要とする研究計画の企画、推進方策)に関する検討
- ②研究資金(科研費・寄付金等)に関する諸問題の検討
- ③研究評価基準に関する問題の整理と課題の抽出

委員長: 光石 衛 副委員長: 丹下 健 幹事: 日比谷潤子、山崎典子

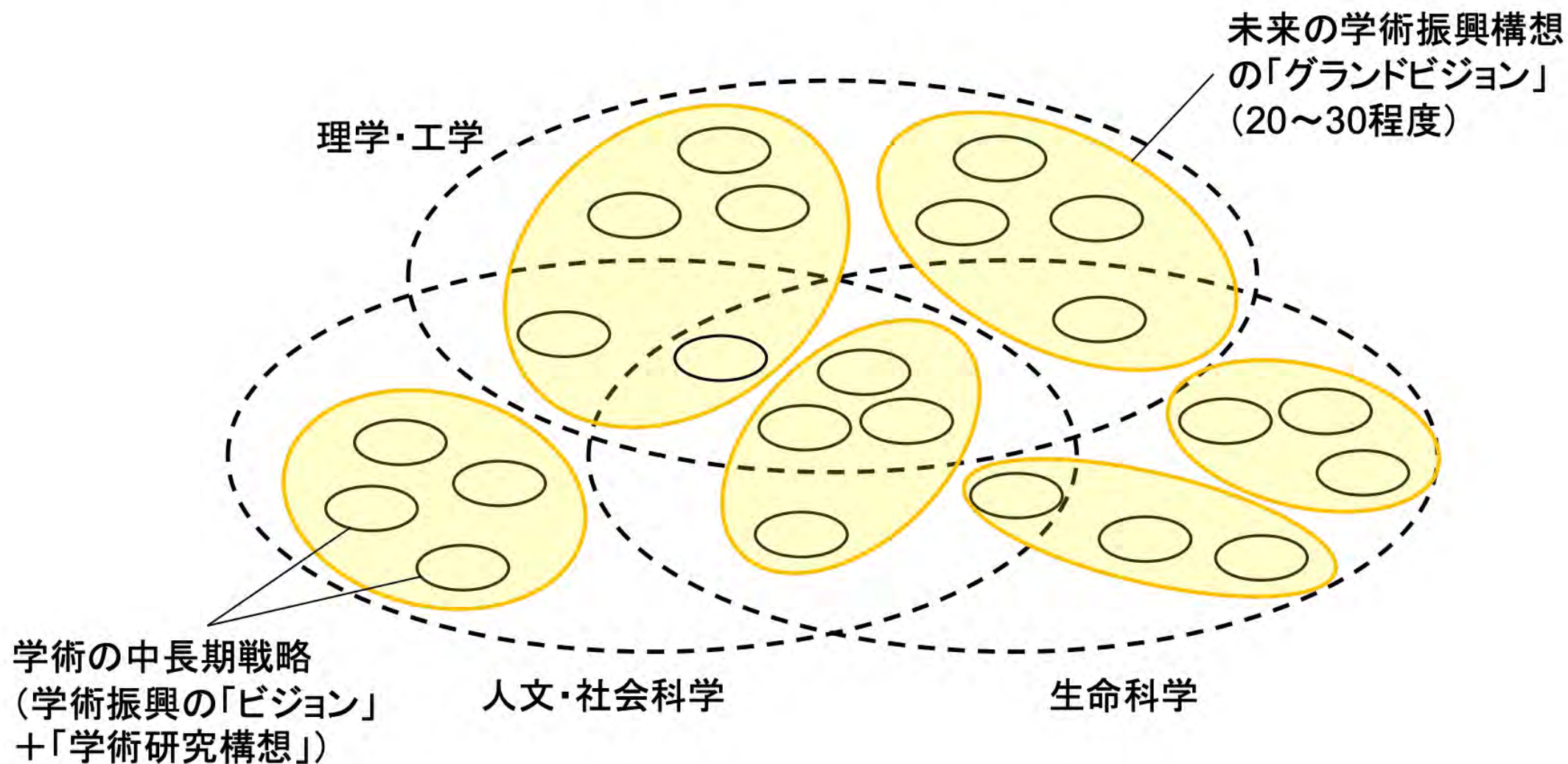
提言: 「未来の学術振興構想(2023年版)」(令和5年9月25日発出)

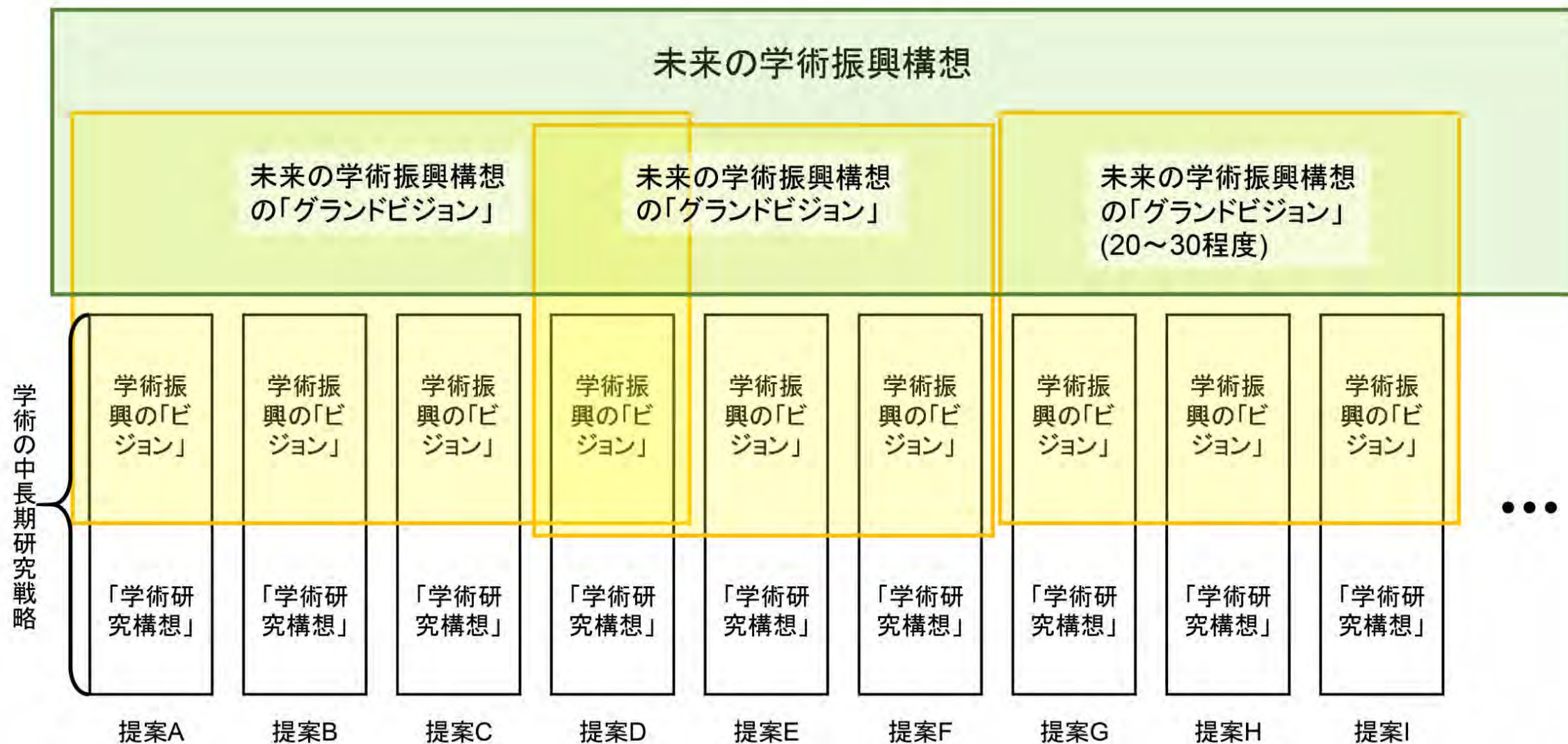
・未来の学術振興構想評価小委員会による募集提案の審査
(会員51名および連携会員21名)

- 提言「未来の学術振興構想(2023年版)」を策定
 - － 今後20～30年頃まで先を見据えた
 - － 学術振興の複数の「グランドビジョン」と
 - － その実現の観点から必要となる「学術の中長期研究戦略」から構成
- 科学者コミュニティからの「学術の中長期研究戦略」の提案を公募
 - － 科学者コミュニティから自由な発想に基づくボトムアップを重視
 - － 研究・教育機関、学協会、日本学術会議会員・連携会員及び若手研究者から広く募集
 - － 複数の研究コミュニティが連携した複合的な提案
 - － 予算の下限を設けず人文・社会科学分野が中核的に関わる提案について積極的に掘り起こし
- 科学者コミュニティから提案された各「ビジョン」を単純に束ねるだけではなく、さらに一段高い分野横断的な視点から検討を加えて、「グランドビジョン」を策定
- 「グランドビジョン」の実現に必要な「学術の中長期研究戦略」を掲載

未来の学術振興構想のイメージ(1)

未来の学術振興構想





提言「未来の学術振興構想（2023年版）」と分野別提案件数



分 野	提案件数
人文・社会科学	9 (4.6%)
生命科学	17 (8.8%)
理学・工学	78 (40.2%)
分野融合	90 (46.4%)
人文・社会科学と生命科学	2 (1.0%)
人文・社会科学と理学・工学	18 (9.3%)
生命科学と理学・工学	12 (6.2%)
3分野すべて	58 (29.9%)
合 計	194

()内は全体の応募件数の合計に占める割合

日本学術会議 令和5年9月25日公表

(審議)

- ・科学者委員会 学術研究振興分科会
- ・同分科会 未来の学術振興構想評価小委員会

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-25-t353-3.html>

「未来の学術振興構想(2023年版)」のグランドビジョン一覧

No.	グランドビジョン	No.	グランドビジョン
1	言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示	11	数学・数理科学・量子情報科学が切り拓く未来社会
2	長い時間軸・大きな空間軸・多様な視点からのヒトと社会の科学	12	観測技術革新による地球システムの理解と地球変動予測への展開
3	日本史学を含めた非西洋史学の再構築と国際協働	13	地球規模の環境危機にレジリエントな持続的社会の構築
4	地球の生命環境と食料供給を持続させるための学術創生	14	エネルギーと環境の両立的課題解決
5	生命現象の包括的理解による真のWell-beingの創出	15	持続可能社会に資する革新的な物質・材料の開拓
6	ビッグデータ駆動による生命科学の新たな発展	16	量子ビームを用いた極限世界の解明と人類社会への貢献
7	ヒトの知性を知る、創る、活かすための学術の創生	17	太陽系探査の推進と人類のフロンティア拡大
8	超スマート社会における人の能力拡張とAIとの共生	18	宇宙における天体と生命の誕生・共進化の解明
9	サイバー空間の構築・活用による価値創造	19	自然界の基本法則と宇宙・物質の起源の探求
10	データ基盤と利活用による学術界の再構築		

委員長: 森田 一樹③ 副委員長: 山本 晴子② 幹事: 早川 誠①、山崎 典子(連)

委員: 岩崎 博史②、奥村 幸子③、玉腰 暁子②、丹下 健(連)、中野 貴由③、
野口 晴子①、藤原 康弘②、前川 知樹(連)、光石 衛③、宮川 剛(連)

未来の学術振興構想評価小委員会委員: 56名

目的: 提言「未来の学術振興構想(2023年版)」のフォローアップ

活動内容: 学術研究振興分科会開催(第1～11回)

未来の学術振興構想評価小委員会(第1～4回)

学術フォーラム「未来の学術振興構想 一実現に向けて」開催(令和6年10月4日)

市民公開講座「未来の学術振興構想 共に創ろう30年後の日本」(令和8年9月12日)

意思の表出「未来の学術振興構想(2023年版)」の改訂

学術フォーラム「未来の学術振興構想 ー実現に向けてー」

日本学術会議主催学術フォーラム

未来の学術 振興構想

ー実現に向けてー

25 期に発出した提言「未来の学術振興構想（2023 年版）」について、提言の内容を広く社会において共有するとともに、その実現に向けてどのような活動が行われるべきであるか、また、本構想をより豊かにしていくためにどのようなことが考えられるかなどについて、日本学術会議各部の専門家及び外部有識者による議論を行います

令和6年
10月4日(金) 13:00～18:00

【開催場所】日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34

東京メトロ千代田線「乃木坂駅」下車、5 番出口より徒歩 1 分

参加費
無 料

事前参加
申込制
どなたでもご参加
いただけます。

申込方法

▶ 事前申し込みは下記 URL または QR コードから
<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0270.html>

申込〆切：9 月 27 日（金）

日本学術会議講堂での参加は定員になり次第締め切り、超過の際はオンライン参加



- ・提言策定経緯、各分野のグランドビジョン・提案説明 6 件
- ・日本の学術の現在と未来の学術振興構想 2 件
- ・学術研究構想とグランドビジョンの実現に向けた課題 3 件

プログラム

司会進行：山本 晴子（日本学術会議第二部会員、国立研究開発法人国立循環器病研究センター理事）

13:00～13:05	開会挨拶	光石 衛（日本学術会議会長／第三部会員、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事、東京大学名誉教授）
未来の学術振興構想（2023）について【提言策定経緯】		
13:05～13:15	「未来の学術振興構想（2023）」の目指したもの	光石 衛（再掲）
13:15～13:30	「未来の学術振興構想（2023）」提言策定経緯	山崎 典子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授）
【人文・社会科学関連分野】		
13:30～13:45	ネットワーク社会における包摂性と多様性の実現	鈴木 基史（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院法学研究科教授）
【生命科学関連分野】		
13:45～14:05	生命科学の新たな展開と創成	石塚 真由美（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院獣医学研究院教授）
【理学・工学関連分野】		
14:05～14:35	自然の探求と技術革新による未来社会の基盤形成	田近 英一（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授）
【分野融合】		
14:35～15:05	分野融合で拓く学術の未来	岸本 喜久雄（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）
休 憩		
日本の学術の現在と未来の学術振興構想		
15:15～15:40	未来の学術振興構想 ー研究力の視点からー	山口 周（東京大学名誉教授）
15:40～16:05	日本の学術に求められるこれからの展開 ー協働、多様性、文化ー	渡辺 美代子（日本学術会議連携会員、日本大学常務理事・特定非営利活動法人ウッドデッキ代表理事）
休 憩		
学術研究構想とグランドビジョンの実現に向けた課題		
16:15～16:40	学術と社会のたゆまぬ前進に向けてー学術振興構想とグランドビジョン実現に向けた課題ー	中村 道治（国立研究開発法人科学技術振興機構名誉理事長、元株式会社日立製作所執行役副社長）
16:40～17:05	「未来の学術振興構想」を政策の観点から考える	菱山 豊（順天堂大学革新的医療技術開発研究センター特任教授）
17:05～17:30	我が国の科学技術・イノベーション政策について	山本 正樹（内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官（総括担当）付参事官補佐）
17:30～17:50	まとめ・開会挨拶	森田 一樹（日本学術会議第三部会員、科学者委員会学術研究振興分科会委員長、東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻教授）

出席者

関係者以外現地参加：39名

最大視聴者：192名

アンケート回答者：20名

学術フォーラム講演者・出席者および学協会アンケートから出た意見

- ・研究力強化に対する学術界の意思表出の重要性
- ・骨太プログラム、ロードマップ、政策立案者への働きかけの重要性
- ・認知度を高め、各省庁や企業が予算付け可能な仕組みの構築
- ・学協会への周知方法の改善
- ・誰にむけて発信し、どのように活用するのか
- ・国民にわかりやすい言葉で書くべき
- ・国民や人類へのメリットが説明不足
- ・キャッチアップ型の説明が多いが日本の強みを強調することも重要
- ・19のグランドビジョンの重なりや関係を表現する図があると解りやすい
- ・定期的な(最低5年に1度)見直しは必要

- 大幅な見直しはせず、19のグランドビジョン実現及びより一層の充実を目指す。
- 【応募区分 I】「学術の中長期研究戦略」の追加募集と、【応募区分 II】「未来の学術振興構想(2023年版)」に掲載の「学術の中長期研究戦略」の改訂 に大別。
 - ・応募の際には、関連する既存の19のグランドビジョンの番号を挙げる。(関連するグランドビジョンがないものも応募可)
 - ・提言「未来の学術振興構想(2023年版)」に掲載の「学術の中長期研究戦略」は、引き続き「未来の学術振興構想」改訂版に掲載する。
 - ・引き続き掲載するが「学術の中長期研究戦略」の中の「ビジョン」や「学術研究構想」の積極的なブラッシュアップを促す。その際、学術研究構想の進展、国内外の研究の動向、所属するグランドビジョンとの関連や同じグランドビジョンに所属する他の「学術の中長期研究戦略」の内容を十分に踏まえる。

第26期「未来の学術振興構想」

1. 背景と目的

2. 策定の意義

3. 「未来の学術振興構想」の改訂

1) 改訂プロセス

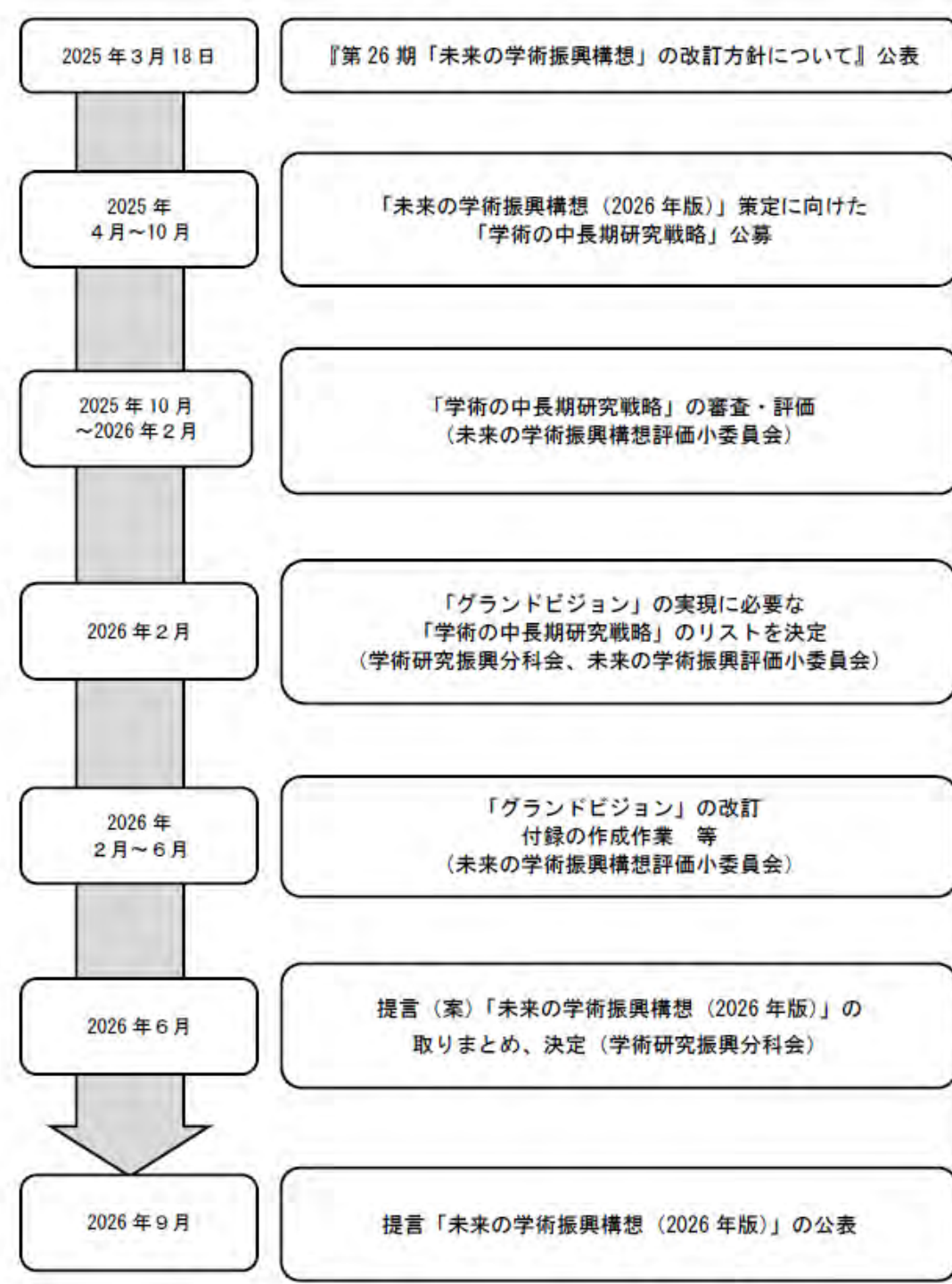
2) 公募(追加募集)

3) 「未来の学術振興構想」に掲載の「学

4) 提案者

4. 利益相反

5. スケジュール



1. 未来の学術振興構想の背景と目的
2. 「学術の中長期研究戦略」の公募等
3. 公募等の対象
 - 1) 応募区分Ⅰ：追加募集
 - 2) 応募区分Ⅱ：提言「未来の学術振興構想(2023年版)」に掲載の「学術の中長期研究戦略」の改訂
4. 提案者
5. 公募等期間 2025年4月1日(火)～2025年10月1日(水) (意向表明締切 8/1)
6. 応募方法 応募区分に応じたURLの様式に従い、ウェブで応募
7. 提案書の記載内容 記入項目、内容、分量等の詳細 Web参照
8. 説明会の開催 2025年4月24日(木) 16時～17時 要Web登録
9. ご質問、お問い合わせ URL: <https://forms.office.com/r/WNpFL7WT6F>
10. その他

応募された「学術の中長期研究戦略」の審査について

- 未来の学術振興構想評価小委員会委員56名による審査
- ワーキンググループの設置なし
- 各グランドビジョンを担当する小委員会委員が、それぞれの区分Ⅰおよび区分Ⅱに応募された提案を審査

○ 審査(○ ×)の観点

i 【学術振興の「ビジョン」について】

ア 「ビジョン」の豊かさ

イ 「ビジョン」を実現するための学術研究構想となっているか

ii 【学術研究構想について】

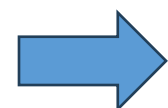
ア 学術上の意義又は社会的な価値

イ 成熟度

ウ 優位性

エ 必要性

採択：区分Ⅰ 23件
区分Ⅱ 174件



必要に応じて小委員会委員によりグランドビジョンを改訂

「未来の学術振興構想(2026年版)」のグランドビジョン一覧

No.	グランドビジョン	No.	グランドビジョン
1	言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示	11	数学・数理科学・量子情報科学が切り拓く未来社会
2	長い時間軸・大きな空間軸・多様な視点からのヒトと社会の科学	12	観測技術革新による地球システムの理解と地球変動予測への展開
3	日本史学を含めた非西洋史学の再構築と国際協働 文化論と歴史学のグローバル化による文系諸学の再構築と国際協働	13	地球規模の環境危機にレジリエントな持続的社会の構築
4	地球の生命環境と食料供給を持続させるための学術創生	14	エネルギーと環境の両立的課題解決
5	生命現象の包括的理解による真のウェルビーイングの創出	15	持続可能社会に資する革新的な物質・材料の開拓
6	ビッグデータ駆動による生命科学の新たな発展	16	量子ビームを用いた極限世界の解明と人類社会への貢献
7	ヒトの知性を知る、創る、活かすための学術の創生	17	太陽系探査の推進と人類のフロンティア拡大
8	超スマート社会における人の能力拡張とAIとの共生	18	宇宙における天体と生命の誕生・共進化の解明
9	サイバー空間の構築・活用による価値創造	19	自然界の基本法則と宇宙・物質の起源の探求
10	データ基盤と利活用による学術界の再構築		

日本学術会議『未来の学術振興構想（2026年版）』

19のグランドビジョンのご紹介

1 言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示



包摂社会の実現

人文科学の充実、データ因果解析、現代社会問題解決

2 長い時間軸・大きな空間軸・多様な視点からの人と社会の科学



人類史、グローバル地域研究、デジタル・トランスフォーメーション(DX)

3 文化論と歴史学のグローバル化による文系諸学の再構築と国際協働



非西洋史学の再構築、多言語史料の翻訳、国際協働

4 地球の生命環境と食料供給を持続させるための学術創生



植物科学の充実、地球環境保全、持続可能な食料供給

5 生命現象の包括的理解による真のウェルビーイングの創出



デジタルツイン

生命科学包括的理解、ワンヘルス、プレジジョンメディシン

6 ビッグデータ駆動による生命科学の新たな発展



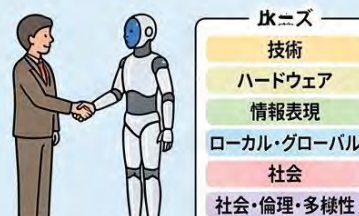
生命科学ビッグデータ、収集・保全・分析
ナショナルバイオデータベース

7 ヒトの知性を知る、創る、活かすための学術の創生



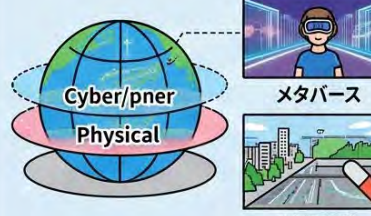
脳型人工知能、普遍原理理解、こころの病問題解決

8 超スマート社会における人の能力拡張とAIとの共生



汎用・自律AI、人の能力拡張、マルチモーダル、ELSI

9 サイバー空間の構築・活用による価値創造



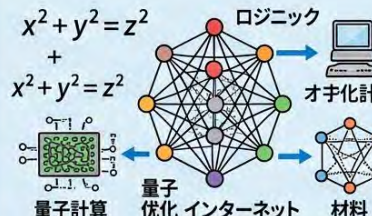
デジタルツイン、メタバース
高度シミュレーション、試行実験

10 データ基盤と利活用による学術界の再構築



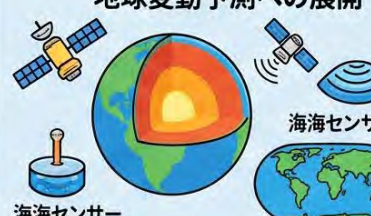
大学デジタル変革
データから知識へ
データの知識網をグラフ AIベースモデル
知識基盤整備
オープンマインドネットワーク
学術界のデジタル変革、知識基盤整備、利活用人材育成

11 数学・数理論科学・量子情報科学が切り拓く未来社会



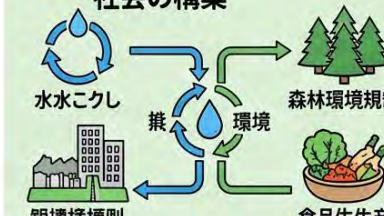
$x^2 + y^2 = z^2$
ロジック
オナ化計算
量子計算
量子優位 インターネット
材料
量子コンピュータ、量子インターネット、量子インターネット、量子マテリアル、拠点形成

12 観測技術革新による地球システムの理解と地球変動予測への展開



海海センサー
革新的観測技術、固体地球、深海・海洋・陸上・大気、地球変動予測

13 地球規模の環境危機にレジリエントな持続的社会的構築



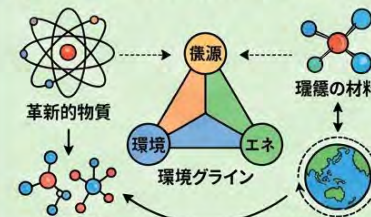
水水コクシ
環境
森林環境規制
食品生産
環境危機への対応、人間活動と地球環境の調和、レジリエント、脱炭素・物質循環

14 エネルギーと環境の両立的課題解決



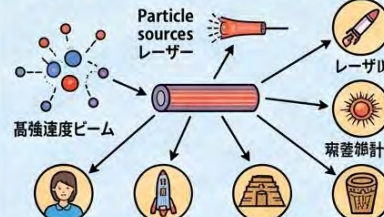
エネルギー源
水素xccn
状態象分析
環境負荷低減エネルギー源、持続可能、再生可能エネルギー、蓄電池、水素

15 持続可能社会に資する革新的な物質・材料の開拓



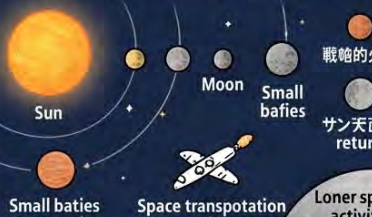
革新的物質
環境
エネ
水素科学
グリーンヒール
革新的物質・材料、資源循環、カーボンニュートラル、トポロジカル、水素科学

16 量子ビームを用いた極限世界の解明と人類社会への貢献



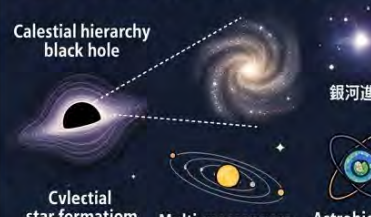
Particle sources
レーザー
高強度ビーム
高輝度光源
レーザー
古仕光鏡
アクアド計測
高強度ビーム、放射光・レーザー、時空間イメージング、オペランド計測

17 太陽系探査の推進と人類のフロンティア拡大



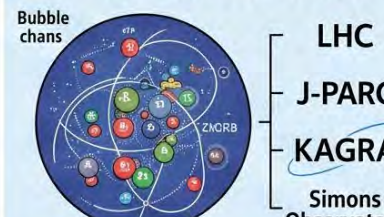
Sun
Moon
Small bodies
戦略的火星
サン天面再帰
Small bodies reinterced
Space transportation roadmap
Loner space activity
戦略的火星探査、国際宇宙探査連携、有人宇宙活動、フロンティア拡大

18 宇宙における天体と生命の誕生・共進化の解明



Celestial hierarchy
black hole
銀河進化
Cylectial star formation
Multi-messengers
Astrobiology
宇宙史解明、銀河進化、系外惑星、多様性の起源、生命の普遍性

19 自然界の基本法則と宇宙・物質の起源の探求



Bubble chans
LHC
J-PARC
KAGRA
Simons Observatory
素粒子・ハドロン・原子核、既知法則を超える原理、宇宙と物質の起源

- 市民公開講座（サイエンスアゴラ2026 出展企画）：
「未来の学術振興構想 共に創ろう30年後の日本」
- 令和8年9月12日 10時30分～12時
- 講演8件（8「グランドビジョン」から各1件の「学術の中長期研究戦略」を紹介）
- 総合討論：文部科学省 近藤潤 研究開発戦略課長
- 来賓：三谷英弘 衆議院議員



30年後の日本は、どんな科学でできている？

市民公開講座

未来の学術振興構想

共に創ろう **30**年後の日本！

—サイエンスアゴラ 2026—

8つの中長期研究戦略を研究者がわかりやすく紹介！
みんなで「30年後の日本に必要な研究」を考えよう！

宇宙・天文学
生命のゲノム
AI・情報科学
医療・創薬
環境・グリーン社会
地震・防災
陽電子・物質科学
宇宙の謎・暗黒物質

日時 令和8(2026)年
9月12日(土)
10:30～12:00

参加
無料
事前登録不要

主催 日本学術会議 科学者委員会
学術研究振興分科会

会場 アクセス
<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/2026/#access>

場所 テレコムセンタービル5階
オープンスペース E
東京都江東区青海2丁目5-10

プログラム(90分)

司会：山崎 典子（日本学術会議選考委員／国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 教授）

オープニング
10:30～10:38 開会挨拶、「未来の学術振興構想」と本企画の趣旨説明
森田 一樹（日本学術会議第三部委員／日本製鉄株式会社 顧問／
東京大学 名誉教授／大阪大学工学研究科 特任教授）

本編(構想説明+質疑応答)

- 10:38～10:46 200大学集合！目指せグリーン社会変革
岡田 小枝子（人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 准教授）
- 10:46～10:54 「守護天使チーム」による究極の個別化医療と見守り社会の実現
横井 英人（一般社団法人 日本医療情報学会 代表理事）
- 10:54～11:02 染色体が構想：すべての生物種の染色体の可視化を目指して
田辺 秀之（一般社団法人 染色体学会 理事長／
総合研究大学院大学 総合進化科学研究所 准教授）
- 11:02～11:10 人文知×AIで、ことばと文化の壁を取り払う
小本 智信（国立国際研究所 副所長）
- 11:10～11:18 震源近傍観測・破壊再現実験による沈み込み帯プレート地震
メカニズム研究の新展開—「次の次の」南海トラフ巨大地震予測に向けて
望月 公義（東京大学地震研究所 教授）
- 11:18～11:26 陽電子の反応。陽電子で挑む物質科学・基礎科学研究所とその未来
日本 泰之（日本陽電子科学会 会長／東京理科大学 理学部 教授）
- 11:26～11:34 アンデス高原で宇宙最高エネルギーの光を追うアルパカ実験
さこ 隆幸（東京大学宇宙線研究所 教授）
- 11:34～11:42 地下深くから宇宙の謎に挑む—XLLZD実験で探る暗黒物質
山下 樹樹（名古屋大学宇宙地球環境研究所 教授／
東京大学数物連携宇宙研究機構 客員上級科学研究員）

総合討論

11:42～11:56 未回答の質問の整理、クロストーク
モデレーター：宮川 剛
（日本学術会議連携委員／
藤田医科大学研究推進本部 総合医科学研究部門
医科学研究センター システム 教授）

ゲスト：近藤 潤
（文部科学省 研究開発戦略課長）

クロージング

11:56～12:00 まとめ、閉会挨拶
山本 晴子（日本学術会議第二部委員／
国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 理事）

開催趣旨

日本学術会議「未来の学術振興構想」は、今後20～30年先を見据えた学術振興の19のグランドビジョンと、その実現に向け今後10年程度で取り組むべき「学術の中長期研究戦略」から構成される。我が国の学術の将来像を示す重要な提言です。

本企画では、これらの研究戦略を8名の研究者が、中高生を含む一般市民に向け各構想の魅力と社会的意義を発信します。行政・政治の関係者をゲストに迎え、フロアからの質疑応答も交えながら「30年後の日本に必要な研究とは何か」を共に考え、研究の知的興奮と未来構想に触れる90分にいたします。

こんな方におすすめ！

- ✓ 科学や研究に興味がある中高生・小学生とその保護者
- ✓ 将来、研究者・技術者を目指す人
- ✓ いろいろな分野の研究を一度に知りたい人
- ✓ 未来の社会や日本の姿を考えてみたい人

どなたでも
お気軽に
ご参加ください！